

# がんセンターたより

## 総長就任のご挨拶

総長 中山 治彦



みなさん、こんにちは。本年4月1日付で総長に就任した中山治彦です。

元号が変わり、大型連休も終わり、普段の生活のリズムを取り戻したところと思います。連休の際は、2日にわたり通常業務を大きな混乱なく行うことができました。あらためてみなさまのご協力に感謝いたします。

この4月から当センターの組織も変わりましたので、主なところを説明します。まずは本格的な幕開けとなったがんゲノム医療への対応です。国によるゲノム医療の進展を踏まえ、当院でもがんゲノム診療を行い、他の医療機関との連携拠点となるべくがんゲノム診療センターを設置しました。事務局は大きく様変わりしました。これまで企画調査室が担ってきた広報、教育研修と一部の情報セキュリティは総務企画課の業務となります。情報セキュリティについては総務企画課に一元化されます。経営企画課を財務経営課とし、当センターの財務・経營業務に特化します。医事課、情報システム管理室、企画調査室に分散していた診療情報の管理は医事・診療情報管理課に集約しました。また患者支援センター内にあった地域連携室を地域連携課とし、集患と地域連携機能を強化します。さらに、患者からの苦情などコンフリクト案件に迅速かつ組織的に対応するため患者支援部内に患者医療対話推進室を新設しました。新しい酒は新しい革袋に盛れ、とばかり体制を整えましたが、お酒がおいしくなるにはもう少し時間が必要です。業務が円滑に進

むまでしばしお時間をください。

さて、改元を機に(?)に当センターのミッション、ビジョン、バリュー(行動基準)を新たに策定しました。ミッション・ビジョンがない組織(会社)は真つ当な事業はできず、単に人の群れがあるだけといわれています。病院も同じです。何のために、どこに向かって、何をするのか、の指標にこのミッション、ビジョン、バリューは不可欠です。このがんセンターたよりが届くころには院内各所でみなさんの目に留まると思います。

新元号である令和の令は「善いこと」を、和は「和を以て貴しとなす」という意味があるそうです。この言葉に小林理初代総長の就任あいさつを思い出しました。以下原文のまま改めて皆さんに紹介します。がんセンターの皆さんに、職員の心構えとして3つお願いがあります。第一に患者さんや家族には優しく、がんに厳しい職員になってください。他人の悩みや痛みを敏感に感じ取る側隠の心を忘れないでください。次に、品格のある職員でいてください。自分に厳しく、社会や患者さんの価値観と大きくずれないでください。最後に協調性のある職員でいてください。医療は国家資格を持った多くの職員で提供されます。お互いの専門性を尊重し、認め合って最高の医療を提供してください。「和を以て貴しとなす」を忘れないでください。

患者さんに選ばれ、職員が生きがいと誇りを持てる病院を目指して力を尽くす所存ですので、よろしくお祈りします。

# 就任のご挨拶



## 副院長 金森 平和

4月1日付けで副院長を拝命いたしました。3月までは企画情報部長として6年間、神奈川県のがん診療連携協議会（協議会）会長を務めさせていただきました。院内では、医師研修や学術セミナーなどの企画を担当してきました。今年度は、協議会関係の他、新たに立ち上げたがんゲノム診療センターも担当します。診断や治療に加えて、がん患者さんには様々なサポートが必要であり、病院内外のチームワークを基盤とし

た医療が求められています。引き続き、協議会では国の情報を把握しながら、神奈川県（行政）とも協働して、県民に質の高いがん医療を提供できるように5つの部会（相談支援部会、院内がん登録部会、緩和ケア部会、地域連携クリティカルパス部会、がん薬物療法部会）活動を行ってまいります。ひとりでも多くのがん患者さんが納得して治療を受けられるよう、当センターがけん引力を発揮できるようにお手伝いをさせていただきます。これからもご支援をお願い申し上げます。



## 副院長 酒井 リカ

4月より副院長を拝命いたしました酒井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。当院にはレジデントとして3年間お世話になったのち、血液内科スタッフとして計3年間の経験をへて、平成23年より腫瘍内科部長として勤務しています。また、昨年度より医療安全という新たな分野も担当し、日々、貴重な経験をさせていただいております。

医師として歩んできた道のりの半分をこちらの病院でお世話になってまいりました。この間、多くの先生方や医療スタッフの皆さま、そして、様々な患者さん・ご家族との出会いの一つ一つが、今日の私を形成し、そして、支えとなっています。このたび、新たな役職を拝命し、大役が務まるか自問自答の日々ですが、これまで育てていただいた神奈川県立がんセンターに少しでも恩返しができるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 副院長 森本 学

このたび副院長を拝命いたしました。至らぬところ多々あるかと存じますが、ご指導・ご鞭撻を頂きますと幸いです。

さて、自分が担当します「患者支援部」をご紹介します。ここには「患者相談支援室」「入退院支援室」「緩和ケアセンター」「医療福祉相談支援室」「地域連携課」、さらに「患者医療対話推進室（コンフリクト）」や「アピランスサポートセンター」「がんゲノム医療相談支援」「がんリハビリ」などの部門があり、総勢40名余りで業務を行っています。

まず何と言っても「がん初診を“敷居低く”“迅速に”お受けする」ことを基本窓口とします。そして、がんを専門に扱う病院においては高度な医療が提供されることはもちろんですが、治療以外にも多くのサポートをご提供します。がんと付き合っていくための「就労支援」「精神サポート」「がん患者を抱えるご家族の支援」「高齢者がん療養支援」「ゲノム医療支援」なども当部門にスタッフを揃えております。

皆様にとってお役に立てる「患者支援部」となるようを努力して参りますので何卒宜しくお願い申し上げます。



## 副院長 丹下 純子

この度、副院長を拝命いたしました丹下純子と申します。昨年度まで務めてまいりました看護局長の職も引き続き担当することとなり、新たな気持ちを引き締め、役割を担ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度で、がんセンターに着任し3年目になりました。2年間は看護局長としてスタッフと共に、看護師の確保定着対策、がん専門病院に貢献できる看護師の育成、看護の質の

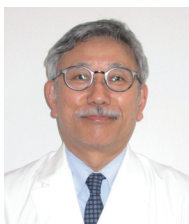
向上に努めてまいりました。今年度は、52名の新たな仲間を迎えスタートした看護局の運営と共に、多職種が協力・連携して患者ケアを提供できるチームづくりに貢献していきたくと思っています。日々、仕事に向き合う中で「対話」と「信頼」がチームには重要と考えています。職員一人ひとりとの関係性を大切にしてチーム力を高め、患者ケアの質の向上と共に職員のヘルシーワークプレイスを実現できる職場づくりに貢献できるよう努力してまいります。



## 副看護局長 砂田 麻奈美

4月1日付で副看護局長として配属になりました砂田麻奈美です。こども医療センターから3年ぶりに戻りました。以前とは違う立場ではありますが、3年間で変わっていると感ずることがたくさんあります。今の医療現場は、すさまじい勢いで変化しています。その変化に対応しつつ、スタッフが一丸となって「がん看護」を実践し患者に真摯に向き合っている姿に頼もしさ

を感じています。業務担当副看護局長として、スタッフが患者・家族への看護にやりがいを持ち、互いに医療者として尊重しあい、生き生きと仕事ができる環境を皆さんと一緒に作り上げていきたくと考えております。「忙しいからできない」ではなく「どうしたらできるか」「どのようなことならできるか」微力ながら考え行動していきたくと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



## 重粒子線治療センター長 鎌田 正

4月1日付で重粒子線治療センター長を拝命いたしました鎌田正です。私は1979年北大医学部を卒業し、そのまま放射線科医局に入り、主に放射線治療を行い、1994年に放医研に移動してからは重粒子線治療を専門としてまいりました。この度、大川院長、中山総長のご配慮により神奈川県立がんセンターにお世話になりました。放医研時代には神奈川県立がんセンターの多くの先生に大変、お世話になり

ましたが、この場をお借りして改めて御礼を申し上げる次第です。重粒子線治療は2016年4月から骨軟部肉腫、2018年4月には頭頸部癌、前立腺癌が保険収載されたこともあり、直近の資料によれば年間1000例近い治療を実施している重粒子線治療施設も認めています。神奈川県立がんセンターにおきましてもより多くのかたがたにこの治療を提供できるよう皆さまと協力して重粒子線治療センター全体で取り組んでいきたくと考えております。



## 事務局長 和田 篤

このたび事務局長に着任いたしました和田です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

県立病院の勤務は3病院目となりますが、厚生労働省から都道府県がん診療連携拠点病院として指定され、神奈川県のがん医療の拠点としての役割を担うとともに、重粒子線治療施設やがんゲノム診療センターの設置など、全国的にも先駆的な取組を進める当センターを事務部門から支える役割を担い、改めて身の引き締まる思いです。

当センターは、診療部門のみならず、臨床

研究や人材育成など、がん医療における多岐にわたる機能を有しています。これらの機能を有効に活用するためには、地域の医療機関、福祉施設や教育機関の方々との密接な連携が必要であると考えております。

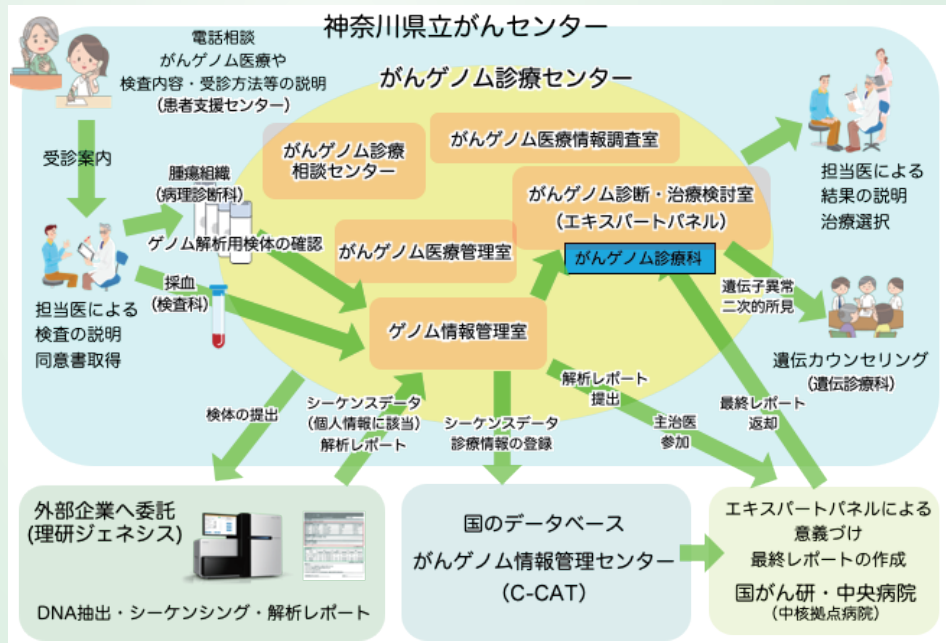
また、患者さんの療養生活を支え、患者さんに信頼される医療機関であるために、ハード、ソフト両面からの整備も進めて行く必要があります。

高度・先進医療機関としての経営環境を整え、こうした多様なニーズに応えるため、事務部門として精一杯努力してまいりますので、皆様の御支援をお願いいたします。

# がんゲノム診療科新設について

## がんゲノム診療科 廣島 幸彦

がんのゲノム診療には、個々のがん患者さんの遺伝子異常に基づく「個別化治療」と遺伝的にがんになりやすい方への「個別化予防」とがあり、今回新設されたがんゲノム診療科では、「個別化治療」を対象としています。再発・進行がんには抗癌剤による治療が行われますが、がんに関する多くの遺伝子（がんゲノム）を調べることにより、特定の分子標的治療薬などへの感受性を判定することが可能になりました。当院では国立がん研究センター中央病院の「がんゲノム医療連携病院」として、質の高いがんゲノム医療提供体制の構築のため、「がんゲノム診療センター」を開設し、新たに採取されたがん組織、あるいは過去に手術などで採取したがん組織からがんゲノムを解析し、「がんゲノム診断・治療検討室（エキスパートパネル）」で検討することにより、標準治療がない、若しくは既に終えた患者さんに対して、有望な治療薬の情報提供と治療薬提供までのルートをご案内します。がんゲノム診療科では、エキスパートパネルの運営とがんゲノム個別化治療に関するご相談に応じます。

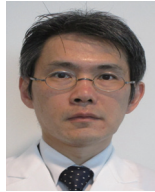


# 新任の紹介

職員の異動がありましたのでご紹介します。  
どうぞよろしくお願いいたします。



消化器外科  
部長  
尾形 高士



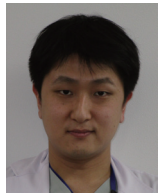
東洋医学科  
部長  
板倉 英俊



放射線診断・IVR科  
部長  
栗原 宏明



呼吸器内科  
医長  
村上 修司



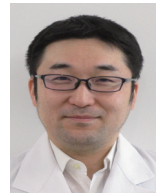
血液・腫瘍内科  
医長  
高橋 寛行



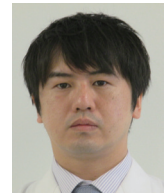
消化器外科  
医長  
神尾 一樹



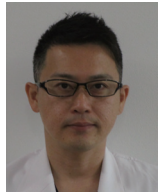
婦人科  
医長  
北川 雅一



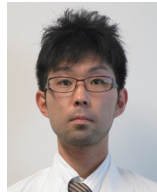
泌尿器科  
医長  
鈴木 孝尚



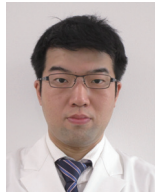
放射線治療科  
医長  
高草木 陽介



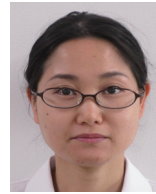
がんゲノム診療科  
医長  
廣島 幸彦



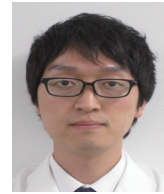
呼吸器外科  
医師  
根本 大士



血液・腫瘍内科  
医師  
鈴木 泰生



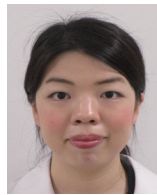
血液・腫瘍内科  
医師  
松村 彩子



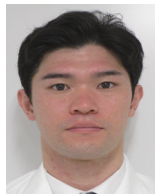
消化器内科  
医師  
金田 義弘



消化器内科  
医師  
林 慧



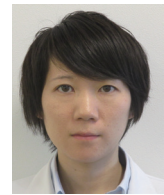
消化器内科  
医師  
石田 彩花



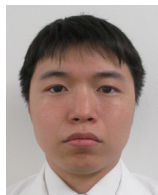
消化器内科  
医師  
長島 周平



消化器外科  
医師  
渡邊 勇人



消化器外科  
医師  
神谷 真梨子



消化器外科  
医師  
岡本 浩直



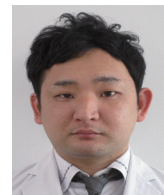
頭頸部外科  
医師  
勝又 徳行



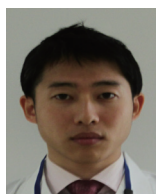
乳腺内分泌外科  
医師  
戸田 宗治



泌尿器科  
医師  
柴田 洋佑



骨軟部腫瘍外科  
医師  
徳永 雅彦



放射線科  
医師（専攻医）  
加納 希生



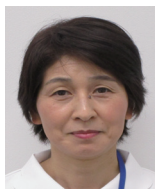
放射線診断技術科  
科長  
渡邊 優



検査科  
科長  
堀口 早苗



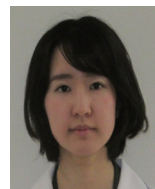
看護科長  
川口 礼子



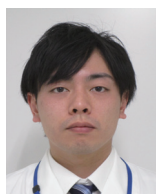
看護科長  
渡邊 千恵



医師  
高村 卓志



医師  
岡本 咲



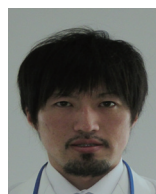
医師  
上岡 祐人



医師  
公盛 啓介



医師  
小野沢 博登



医師  
田中 聡



2019年度 臨床腫瘍セミナー

今年度も「臨床腫瘍セミナー」を開催いたします。予定表をご覧ください、興味あるテーマがございましたら是非ご参加ください。

日付	テーマ	所属	講師名
6月5日	悪性リンパ腫	血液・腫瘍内科	本橋 賢治
12日	多発性骨髄腫	血液・腫瘍内科	高橋 寛行
19日	白血病	血液・腫瘍内科	立花 崇孝
26日	現在の食道がん診療について	消化器外科	尾形 高士
7月3日	膵がんの外科治療	消化器外科	山本 直人
10日	胃がん（外科）	消化器外科	山田 貴允
17日	肺がんの外科治療	呼吸器外科	永島 琢也
24日	肺がんの薬物療法	呼吸器内科	村上 修司
31日	頭頸部腫瘍	頭頸部外科	古川 まどか
9月4日	大腸がん（外科）	消化器外科	菅野 伸洋
11日	胆膵がん	消化器内科	小林 智
18日	肝がん	消化器内科	福島 泰斗
25日	胃がん（内科）	消化器内科	林 公博
10月2日	乳がん	乳腺内分泌外科	山中 隆司
9日	甲状腺がん	乳腺内分泌外科	菅沼 伸康
16日	子宮がん	婦人科	上野 悠太
23日	卵巣がん	婦人科	北川 雅一
30日	前立腺がん	泌尿器科	逢坂 公人

日付	テーマ	所属	講師名
11月6日	腎がん	泌尿器科	野口 剛
13日	膀胱がん	泌尿器科	岸田 健
20日	骨軟部腫瘍	骨軟部腫瘍外科	比留間 徹
27日	転移性脳腫瘍	脳神経外科	山田 幸子
12月4日	原発不明がん	血液・腫瘍内科	酒井 リカ

会場 神奈川県立がんセンター  
管理研究棟5階 大会議室  
時間 18時～19時  
対象 医療関係者  
連絡先 および問い合わせ先  
神奈川県立がんセンター  
総務企画課  
電話 045-520-2222

## 科学技術週間参加行事

## 第32回 県民のための公開講演会が開催されました

臨床研究所・がん治療学部 菊地 慶司

さる4月17日(水)、二俣川の旭区民文化センター(サンハート)ホールにて、県民のための公開講演会「がん免疫治療を知る」が臨床研究所の主催により開催され、190人を超える方々にご来場いただきました。がんの免疫治療は昨年ノーベル生理学賞・医学賞を受賞した本庶 佑・京都大学特別教授らの発見をもとに開発された「免疫チェックポイント阻害剤」の導入によってめざましい発展をとげつつあります。

講演会では臨床研究所・がん免疫療法研究開発学部の笹田哲朗部長により「がん免疫治療の現状と最近の進歩」、泌尿器科の岸田健部長より「腎がん、膀胱がん、腎盂尿管がんに対する免疫療法」、呼吸器内科の山田耕三部長より「肺がんの免疫治療の最新情報」を紹介いたしました。来場の皆様からのアンケートでは「とても参考になった」「先生方の熱意が感じられてとてもよかった」「治療法が日進月歩であることで、希望をつなぐこともできると感じました」などの感想をいただき、皆様にはがんの免疫治療のポテンシャルを感じ取っていただけたのではないかと思います。

ご来場下さった皆様、演者の先生方と大川病院長をはじめご協力くださった関係者の方々に感謝いたします。また、今後もこのような講演会を通して県民の皆様ががんの最新情報を的確にお伝えしていけるよう臨床研究所も努力して参ります。



## がんの親をもつ子どものサポートプログラム『CLIMB(クライム)』を開催しました!

患者支援センター 医療福祉相談室 緒方文字

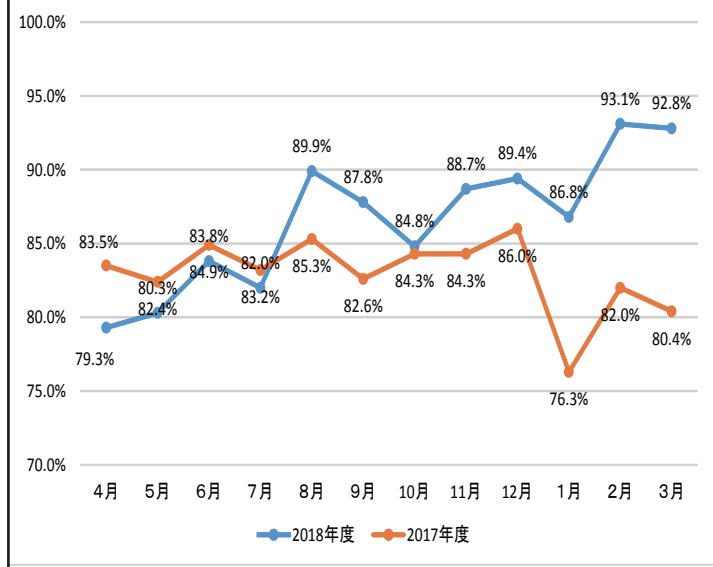


患者支援センターでは、『がんの親をもつ子どものサポート』を行っています。その一環として、この3月にがんの親をもつ子どものサポートプログラム『CLIMB(クライム)』を開催しました。このプログラムは米国で開発され、主要ながんセンターや病院の約70施設にて行われています。親ががんであることを知らされている小学生の子どもたちが集まり工作をしたり、がんについて学んだりします。当院にも7人の子どもたちが参加してくれました。このプログラムが大切にしていることは、①子どもたちの中に共通点を見出して孤立感を軽減すること②工作や絵を描いたりすることで気持ちを発散すること③子どもどうしの仲間のつながり、親子・家族の絆をつくることです。

子どもたちは、みんな『楽しかった、うれしかった』とアンケートに書いてくれました。子どもたちは、つらい経験からも学んで行く力を持っていますが、同じ経験をしている仲間が集まることはとても大切です。今後もこのようなサポート体制をつくっていきたいと思っています。



### 病床稼働率の推移



当センターでは、毎週木曜日、2階ラウンジにて病院ボランティア会「ランパス」の方などによるミニコンサートを開いています。どうぞお立ち寄りください。

### ★ボランティア会 ランパス★ による 5月・6月 木曜ミニコンサート予定表

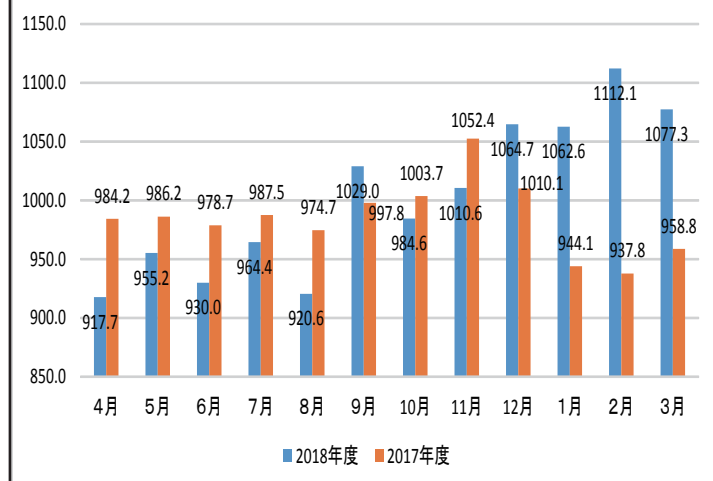
時間：午後2時～（約30分）

日	演奏者	楽器
5/16	看護の日コンサート	
	泉 ゆりの	ピアノ
	丹沢 広樹	ヴァイオリン
5/23	清水 真美	ピアノ
5/30	清水 真美	ピアノ
5/31	安井 慶子	カンツォーネ
6/6	齋藤 範子	声楽
6/13	長島 和美	声楽
6/20	小島 三恵子	声楽
6/27	小谷田 祥子	チェロ

当日演奏者の都合により変更になることがあります。



### 一日平均外来患者数の推移



### 編集後記

今年度は5月から元号が変わりフレッシュな始まりを迎えています。当センターも中山新総長の下、管理者も多くが新たなメンバーとなっています。診療面では、がんゲノム医療体制も整えられました。物事がめまぐるしく変わっていくこの時代、私たちは世の中の変化をしっかりと捉え、先を読み、その変化に相応しく適切に自分たちも変わっていくことが求められています。

長いこと寒かった春が終わり、花粉の飛散もピークを過ぎ快適な季節になってきました。皆、新たな気持ちで今年1年を乗り越えていく事と思います。(病院長 大川 伸一)

編集・発行：神奈川県立がんセンター 総務企画課

〒241-8515 横浜市旭区中尾2-3-2

TEL 045-520-2222 (代表)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

